

O-0049

## 心肺蘇生法授業履修前後の心理的变化 —理学療法学科学生を対象として—

加藤 太郎

文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科

**key words** 心肺蘇生法・蘇生教育・心理的变化

### 【目的】

突然の心停止 (sudden cardiac arrest ; 以下 SCA) には、速やかな心肺蘇生 (cardiopulmonary resuscitation ; 以下 CPR) の実施が重要であり、SCA 症例に多い心室細動に対して CPR は生存率を上昇させる。生存退院に関わる因子として、早期通報、早期 CPR、早期除細動の実施が、患者の年齢や二次救命処置よりも有意に良い影響を与えるとされる。近年、身体状態が変化しやすい発症直後から理学療法士が介入することが増えている。理学療法施行中に身体状態の悪化や、SCA のリスクは増大することが予想される。また、2025 年問題を始めとする高齢社会問題により今後、訪問リハビリテーションのニーズは急速に増えていく。利用者と 1 対 1 の環境での急変に対して理学療法士は適切に行動できるのであろうか。理学療法士に対する蘇生教育の拡充は重要である。本学では、平成 26 年度入学生よりカリキュラムに一次救命処置 (Basic Life Support ; 以下 BLS) を組み込み、理学療法学科の学生 (以下学生) への蘇生教育を授業として導入した (90 分授業×8 コマ)。この内、実技練習を 90 分×4 コマ分とし、十分な実技練習時間を確保している。また、内容は成人に対する BLS を中心に、学習効果が高いとされる Practice while Watching (PWW) 方式で実施している。授業として蘇生教育を実施している理学療法士養成校は少ないであろう。本研究は、学生に対する蘇生教育の効果を実際の行動に関する心理的側面から明らかにすることを目的とする。

### 【方法】

対象は、本学理学療法学科 1 年生 86 名であった。対象者に BLS 授業開始前、修了後に質問紙調査を実施した。調査期間は平成 26 年 9 月から同年 10 月とした。調査項目は、(1) BLS に関する関心 (以下関心)、(2) 今、目の前で人が倒れたら近づいて声をかけられるか (以下初動) と、(3) 今、目の前で人が倒れたら適切な対応ができるか (以下実施) の 3 項目とした。各項目は 5 段階とし、関心は、5 ある、4 ややある、3 どちらともいえない、2 あまりない、1 ないとした。初動と実施は、5 できる、4 ややできる、3 どちらともいえない、2 あまりできない、1 できないとした。授業履修前後における各項目の回答の変化と、各項目内の回答の割合について比較検討した。統計処理は、各項目の回答の変化 (群間比較) について Wilcoxon の符号付順位検定を用い、また各項目内の回答の割合 (群内比較) について  $\chi^2$  適合度検定を用いて分析検討した。統計的有意水準は 1% 未満とした。なお、全ての統計解析は SPSS ver.21.0J for Windows を使用した。

### 【結果】

アンケート回収率は 99% (85 名) であった。授業開始前と修了後の群間比較において、関心は、 $4.1 \pm 0.9$  から  $4.9 \pm 0.4$  に向上した。初動は、 $3.6 \pm 0.9$  から  $4.3 \pm 0.8$  に向上した。実施は、 $2.4 \pm 1.0$  から  $4.2 \pm 0.8$  に向上した。これら各項目の回答の変化は、全て有意に差があった ( $p < 0.01$ )。また、授業開始前と修了後の群内比較において、関心は「ある」が増加し、初動は「できる」、「ややできる」が増加し、実施は「できる」、「ややできる」が増加した。これら各項目内の回答の割合は、全て有意に差があった ( $p < 0.01$ )。

### 【考察】

本研究により、学生に対する実技練習を中心とした蘇生教育の効果が、実際の行動に関する心理的側面から明らかとなった。特に、生存率に高く寄与する早期通報 (初動)、早期 CPR (実施) が大きく向上した。これらは、理学療法士を含むコメディカルが行動できる重要な役割である。学生に対しても蘇生教育が果たす役割、効果は大きいと考える。平成 24 年度より、日本理学療法士協会の新人教育プログラムに BLS (B-1 一次救命処置と基本処置) が加わり、理学療法士における蘇生教育は徐々に広がりを見せている。しかし、質の高い CPR を正しく実施するためには、ガイドラインや書物を読むだけでは不十分であり、実技練習を中心とした CPR 教育とトレーニングが重要とされる。本研究結果は、実技練習を多く取り入れたことが要因として大きいと考えられ、これは資格を有する理学療法士への蘇生教育方法の再考にもつながると考える。

### 【理学療法学研究としての意義】

本研究により、実技練習を中心とした蘇生教育が実際の行動に関する心理的側面へ効果をもたらすことが明らかとなり、今後の理学療法士への蘇生教育方法の再考への一助になると考える。